

# 五小っ子

平成29年度 学校便り第18号 (11月21日)

島原市立第五小学校  
校長 永田 俊文

## 学校教育目標

『進んで学び、思いやりの心を持ち、  
心身ともにたくましい子どもを育成する』

○ やさしい ○ かしこい ○ たくましい  
教育目標実現を目指し、子どもたち一人ひとりを大切に、全職員で力を  
合わせ、日々の教育活動に取り組みます。



## 学習発表会

11月の寒波にビックリです。明日は小雪(二十四節気第20)ですから、防寒対策が必要な時期となりました。



先週の『学習発表会』には、沢山のご参観をいただき有り難うございました。校長挨拶で申し上げたとおり、あの笑顔を守り続けるために学校・家庭・地域の皆さんと手をとり合って子どもたちを応援して参りましょう。

各学級通信にも担任自身の思いや子どもの感想が綴られています。

・学習発表会へのご参観ありがとうございました。1年生は次の三つ

- ① ゆっくり、はっきり、大きな声で話す。
- ② すばやく立ったり座ったりする。
- ③ セリフを言わない時も姿勢を良くする。

をめあてに練習してきました。

- ・1年から6年まで自分たちにできる仕事を受け持ち、全校で学習発表会を成功させようという気持ちで取り組みました。お家の方や地域の方からの拍手やお褒めの言葉が子どもたちには何よりも嬉しく、自信になることでしょう。
- ・どの学年の発表も工夫され素晴らしく、2年生も飽きることなく楽しく感動しながら見ることができました。全校合唱も毎年レベルアップしていますよね。「みんなオンリーワンなんだね。」子どもたちを見ながら思いました。
- ・市民音楽祭でやり切った感がありましたが、もう一度今度は五小のみんなと安中地区の方々を感動させようと発表会に臨みました。まさかのサプライズに思わずこみ上げるものをこらえる程でした。子どもたちに感謝です。
- ・本番、心配だったけれど成功して良かったです。校長先生も100点満点と喜んでくださったので嬉しかったです。

「自分が頑張ったこと」を褒められる、認められる事は誰にとっても嬉しいし自信にもなります。私が子どもたちによく伝えている“自分を好きになりなさい”につながります。自己肯定感を抱くことは子どもにも、私たち大人にも大事なことです。『俺って結構やるな。』『私もかなりやれるじゃない』と 右頁へ

気付いて欲しいのです。あるエッセイに「親からもらった自己肯定感」という記事がありましたので紹介します。

## 『すごい』と『だいじょうぶ』

この書家の両親の口癖が

『母親：だいじょうぶ』

『父親：すごい』

だったそうなんです。



母親は自身が家庭の内外いろんな事に挑戦して、様々な失敗や悔しい思いもするけれど、「だいじょうぶ だいじょうぶ」という言葉を発しながら、持ち前の行動力で次々に困難に向かう人だった。

父親はというと、何にでも感動する性格で、夕日がきれいというだけで、車で1時間もかけて一番の夕日スポットに家族を連れて行き、みんなで感動を分かち合おうとする人であり、人のこともすぐに「すごい」と褒める人だった。

両親は彼に「だいじょうぶ」と「すごい」という言葉をかける事で、彼に安心感と期待感を抱かせてくれたというエッセイである。

子どもに向かう時に、この「すごい & だいじょうぶ」を存分に伝えてあげたいですね。

本校では算数授業の終わりに、子どもたちが学習を振り返る時間を設定しています。

4段階の自己評価と感想を書くのです。先日の1年生の授業では次のような振り返りを書いてくれた男の子がいました。

「4」が「とてもよくわかった」という最高点なんですが、ある男の子曰く「ぼくは 5にしました!!」・・・「がんばったよ」「できてうれしかったよ」という気持ちの表れなのでしょうね。  
—学級通信から引用—

算数の授業でもらった自己肯定感だと思います。

こころ  
金子みすゞ

おかあさまはおとなで  
大きいけれど  
おかあさまのこころは  
ちいさい  
だって、  
おかあさまは  
いいました  
ちいさいわたしで  
いっぱいだって  
わたしは子どもで  
ちいさいけれど  
ちいさいわたしのこころ  
は大きい  
だって、  
大きいおかあさまで まだいっ  
ぱいにならないで  
いろんなことをおもうから

